

♪♪♪ いい歌、いい町、いい自然 ♪♪♪

No. 487

2003. AUG

広報

あかいけ

8



特集

すてきにイキイキと暮らすヒントを探る
熟年（おとな）の社交場、自分を磨く場…

養命大学



会場は赤池町民会館研修室。スライド用にカーテンが閉められ、初日の講義が始まった…

聞くこと、知ること
毎回、発見の連続です
だからみなさん集中してマス

講義

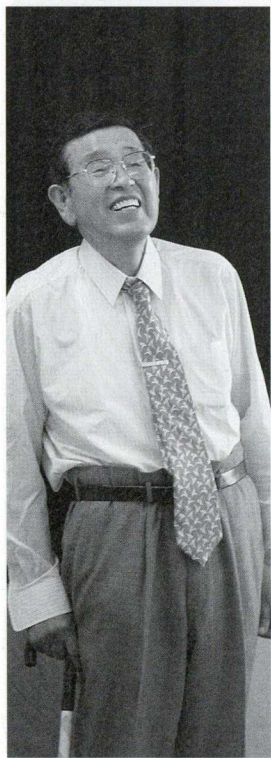
午前中は生の声から知識と教養を得る

「カチャツ」。スライドで英彦山の名所がスクリーンに写し出される。講師は、その画像も見ずに、それにまつわる伝説やエピソードをこと細かに語りはじめた…

平成15年度養命大学が7月3日に開校した。受講生は町内在住の60歳以上のみなさん。95人の申し込みがあった中、この日、93人が出席した。驚異的な出席率が、参加者の意気込みを物語る。

午前中は、講師を招いての講義。第1回目は添田町の藤澤博文先生による「英彦山の伝説と民話」だ。数年前から緑内障をわずらい、かすかにしか目が見えないという藤澤先生。演壇に立つや第一声「冷房が効いているのですが、みなさんの熱気が伝わってきます。失礼ですが上着を脱がせていただきます」。笑みを浮かべながらスクリーンの横に移動した。

参加者が講師の話に集中する。藤澤先生は、画像の名前を聞いただけで瞬時に語りはじめ、まったく間隔が空かない、凄まじい記憶力だ。



●藤澤博文先生 (添田町)
福岡県教育委員会教育事務所長、中学校長を経て、現在は田川郷土史会の副会長として、添田町や英彦山の歴史を広く伝えている。

参加者は、にぎやかに昼食とった後、それぞれ午後の5講座に分かれる。みんな自分を磨こうとする人たち。その意欲的な表情を見ていると、こちらまで元気が沸いてきた。

わたしが上着を脱いだのは
会場の熱気が伝わってきたから…
赤池町の民度の高さを感じました

会場からは、ドツと笑いが出たり、深くうなずく声が聞こえた。10時半からおよそ1時間半、およそ50場面にもおよぶ英彦山の話は、アツという間に終わった。「みなさんの聞く態度はすばらしい。私語も全くなかった。赤池の民度の高さを感じます。今日は私も一緒に勉強させてくださいました」。講義後、藤澤先生が感想を語った。

回	開催日	講義内容
3	8月7日	心も体も元気よく
4	8月21日	わがまちの広報マン
5	9月4日	介護経験から
6	9月18日	今までの人生これからの人生
7	10月2日	本の読み聞かせ
8	10月16日	防犯について
9	11月6日	レクリエーション
10	11月20日	人生笑って楽しく
	12月4日	閉校式

※ 講義内容は都合により変更する場合があります
問い合わせ先：町教委社会教育課 / TEL.28-4100



熟年の社交場

「お久しぶり、お元気でした？」開校日には再会を喜ぶ声が、会場に響いた。

長く楽しむ、楽しく習う…「生涯学習」と言うより「生涯楽習」という文字がぴったりと当てはまる「養命大学」。町教委主催で昭和50年から28年間も続いている60歳以上を対象とした「卒業のない大学」です。そこは、自分を磨き高める場であり、社交場でもあります。午前は毎回講師が変わる幅広いジャンルの講義、午後は5講座に分かれての学習が行われます。台風の影響で流れてしまった6月19日の開校式…95人の参加者が心待ちにしていた初日を7月3日に迎え、今年も月2回、11月まで10回の講座がスタートしました。今回は交流しながらスキル（熟練）アップをめざす各講座の取り組みから、第二の人生をすてきにいきいきと暮らすヒントを探りました。

自分を磨く場…
「養命大学」



受付後、町保健課健康づくり係が血圧測定し健康状態をチェック。



●ペン習字講師
仲島利昭先生（下町）
学校長を経て、町教育委員に、現・教育委員会委員長。赤池中校訓の石碑などを筆耕する。本講座の講師歴は10年以上。

「命」を洗って「養う」場所です 参加できることが何より健康の証 文字どおり「養命大学」は

いますよ。しかし赤池町はい。ここは、命を洗って養う場所なんですから。..
間違った字を直すくらいで、できるだけ丸をたくさん付けることを心がける仲島先生。10年ほど前から人工透析を受けるようになって、人生観が変わり、一日一日を大切にしようになったと言います。
「字を書くのは二の次、とにかく楽しまなければいけない。ここに来られる、ここに

字を書くのは二の次
楽しさと交流が大切
「字が上手にならなくてもいい。この時間、みんなと仲良く、和気あいあいに過ごせればいいんです」。講師の仲島利昭先生は、参加者同士の交流を最も大切にしている。
「私の講座で字を書くのは1時間くらい。それ以外は私がお話しますよ（笑）」。

毎回、ちょっと得になる話を仲島先生が面白おかしく話すというこのペン習字講座は、希望者も25人と、毎年5講座中トップの参加数を誇っている。字を書く前のお話の、みなさんの緊張を解き、肩の力を抜くのだろうか。
「私はね、この『養命大学』という呼び方が好きなんです。ほかの市町村では老人大学とか高齢者大学と呼ばれて

居ること、そのことが何よりの健康の証です」。にこやかにペンを手にした。
この講座は4年目になるという萩原筆雄さん（貫船）。
「普段、好んで字を書くことがないので、なるべく指先を動かそうと受講しました。先生が言われるように、特別上達を目指すのではなく、肩の力を抜いて、楽しく書くようにしています。先生のお話、楽しみの一つです」。笑顔で語った。
ペン習字講座は、会話のにぎやかさと、練習に入ったときの静けさが対照的だ。オフからオンにスイッチが切り替わると、圧倒的な集中力でペンを走り始める。みなさんの一生懸命な姿が、とても美しく印象に残った。



↑初日は筆ペンの「慣らし」に大忙し。



↑おもいきり笑った後は、じっくりお手本を見ながらペンを走らせる。

会話で肩がほぐれる
緊張を解くと集中できる
楽しさと真剣さが上達の基本

ペン習字



講義前のレクリエーション

いつまでも
健康の秘けつ
この「笑顔」にあり